

こぶし だより

働こう障がい者も
SSKW
働けるんだオレたちも



こぶし建設委員会

CONTENTS

- ① トピックス2P ~ 3P
- ② 特集1「みんなの夢をのせてNEW こぶし作業所」...4P ~ 6P
- ③ 特集2「仕事に、燃える」7P ~ 8P
- ④ サポートーズ9P
- ⑤ 追悼・関本正子さん10P
- ⑥ こぶし作業所建設募金協力者 / その他お知らせ11P

No. 331

2009
7-8

トピックス

Topics

こぶしの会 それぞれの現場から

県東ライフサポートセンター真岡

農業分野との繋がりとして

先月のこぶしだよりにて、こぶしの会として農業分野への取り組みを始めた事をお伝えしましたが、なかなか農業と言っても次の展開が悩むところです。そんな中、地元農家などが参加し、宇都宮の農産物の情報を発信しているまんま共和国との繋がりを得ることができ、イベントへの協力・参加を行いました。なかまからも二名がイベントに参加し、出店の手伝いを行ってきました。今後の取り組みの中で、まんま共和国との繋がりから、生産活動や就労へと結びついていけるような展開を見せていきたいと思えます。

―まんま共和国のイベントに参加して―

六月二十八日に、宇都宮のオリオンスクエアでまんま共和国一周年の記念イベントが行われました。そのイベントの手伝いに、県東真

岡から二名が参加しました。

野菜の販売やピラ配りなど、普段とは少し違った仕事の内容でしたが、実際に仕事をした感想を聞いてみました。

「行って良かったと思います。ピラ配りをしたり、仕事に自信がついたような気がしました。一日中立ちっぱなしの仕事だったので体力的に大変でしたが、ステージで音楽の演奏があったり、仕事がしやすかったです」

「二時ぐらいに終わると思っていましたが、四時までだったので疲れました。ピラ配りをするとは予想外でした。仕事はとてもしやすく、お客さんと触れあえたのが良かったです」

当日は、暑さもそれほどではなく、多くの人がオリオン通りを歩いていました。町中で声をかけてピラを配ったり、試食品を提供しながら、接客なども行う大変な仕事でしたが、参加された二名の方は一生懸命作業を行っていました。イベントも盛り上がっており、そば粉をつかった餃子や米粉の焼きそばなどちよつと珍しいものも見られました。

今回のイベントで声をかけていただいた、「ふれあいの里」の社長さんのお話の中で、「障がいをもつということへの配慮はするけれど、特別な扱いはしない。なぜなら、自分も彼らを見ていて『健常者と同じ能力』があると思っっている」との言葉が出てきました。



段階を踏みながら、やる力を伸ばしていけば障がいがあってもできることはある、実際に参加していた二名のなかまもピラ配り・試食品の提供・会計など一生懸命仕事を行っていました。

こぶしの会の農業への取り組みは今後も続いていきます、その中でまんま共和国との繋がりは大きな意味を持ってきます。数々の協力の下で地域で普通に働ける場所が増え、なかまたちのはたらく場所、生きがいへとつながっていききたいと思えます。

(松本)



絵付けにチャレンジ!

こぶし作業所

笑顔がふえたキャンプの夜

こぶし作業所では、七月八日から九日になかま自治会企画で塩原グリーンビレッジにてキャンプをしました。夕方の花火大会の最中には、突然の激しい通り雨に、逃げ遅れて濡れてしまったなかまも…。でも、それも楽しい思い出になりました。

千本松牧場では、素焼きの絵付けにチャレンジしました。常識にとられない色彩や大胆な筆使いなどみんなの個性が見られた瞬間でした。

出来上がったキャンプの写真をみた保護者の方々からも「楽しそうで良かった。安心した」との感想がありました。様々な体験を通じて職員もなかま達の新しい一面に触れられた気がしました。

今回も同行して下さいる看護師の高橋一子さんの応援をいただきました。ありがとうございました。

こぶし作業所

☆ピックアップ☆子育て奮闘



今回はこぶし作業所に通う佐藤秀子さんについてご紹介いたします。

佐藤さんには小学生のお子さんがいて、仕事と子育てを両立しています。そこで、気になる子育ての話をお話をいただきました。

佐藤さんに子育てについて質問しました

Q 今までで大変だったことは?

こどもに病気があって、大変でした。入院のくりかえしがあり、つきそっていないと本人がいやだと訴えたり、自分としても心配でした。

Q いままでで嬉しかったことは?

けっこう小さなうちから、手伝いをしてくれたことが嬉しかったです。

今は大きくなったので、こどもの方から「手伝いすることない?」と聞いてくれることもあります。

Q ふだん、気を付けていることは?

手料理を作るようにしています。時々買ってくることもあるけれど、「お母さんの手料理がいい」と言うので、がんばって作っています。こどもは野菜炒めが好きなのでよく作っています。

Q こどものためにがんばっていることは?

お金をこどものために貯めています。中学に入ってから、服やカバン、体操着などを買わなくてはいけないからです。また、今住んでいる母子寮からで、こどもと二人でアパートを借りて住みたいと思っています。

Q 将来どのように育って欲しい?

健康になって欲しいです。そして、立派に結婚して、幸せになって欲しいです。

【佐藤さんからのコメント】

子育てしながら、本当に大変ですがいっしょうけんめいに仕事もして、がんばっています。こどもの名前は佐藤恵です。

こぶしのなかまで、子もちながら仕事をしているのはわたし一人です。Eメールです。よろしくね!

特集①

みんなの夢をのせて

NEWごぶし作業所

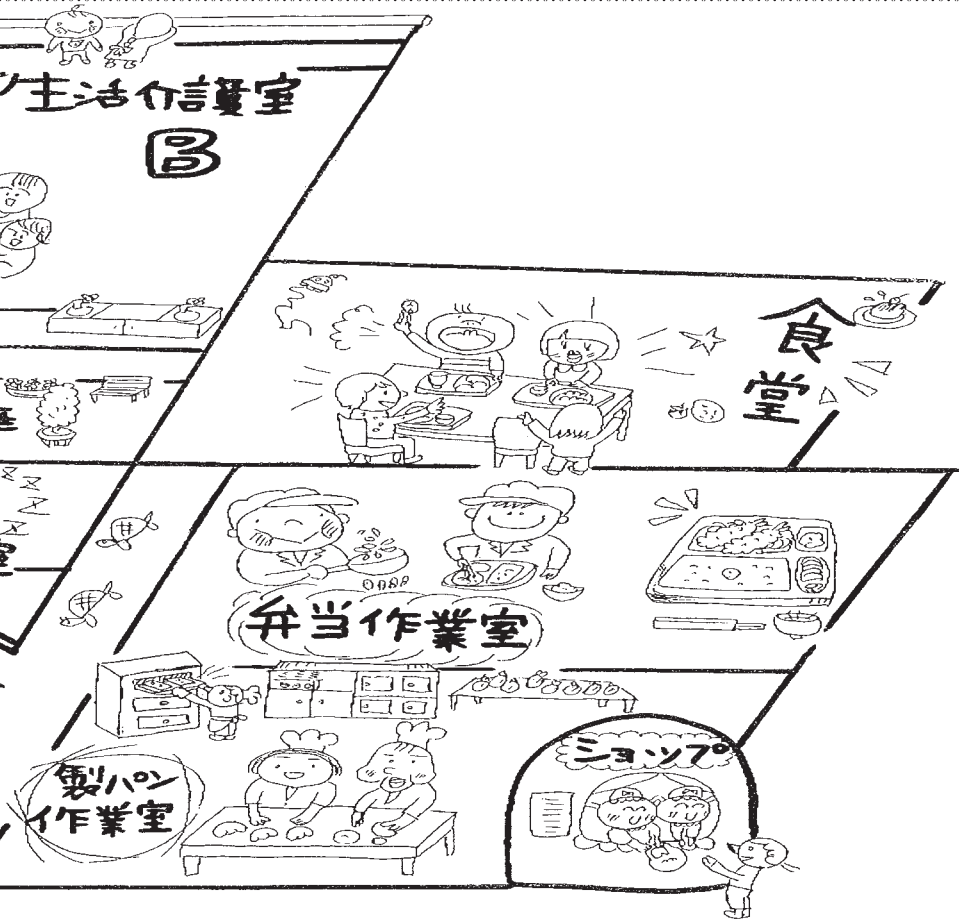
2年間の話し合いを積み重ねて見えてきた作業所のイメージ

新ごぶし作業所の建設が急ピッチではじまろうとしています。二年間、内外の関係者の知恵をあつめ、少しずつイメージをふくらませてきました。みんなの夢をのせたNEWごぶし作業所はこんな作業所です。

利用者のどんな願い・思いを実現すればよいのか。働くことが生活をしていく上での喜びになる作業とはどんな作業か。このような思いを抱きながら、障がいのある方も人として当たり前前権利に認められる施設にしていくために、ごぶし作業所建設プロジェクト委員会が設置されました。

構成メンバーとしては、利用者や保護者・職員は勿論のこと、街づくりを研究されている学識経験者や行政に精通した方や中小企業診断士に参加いただきました。また、若い起業家の方にもアドバイザーとして関わっていただくなど、多彩な顔ぶれとなりました。

委員会では、利用者一人ひとりが能力を高めていくと同時に、私たちを含む地域社会の受容する環境を高めることを具体化していくために、自主製品に関して先駆的な取り組みをしている三ヶ所の施設への視察研修などの学習と検討をすすめました。その結果、高い



工賃、食に関わるもの、安心・安全・もったいない、地産地消、環境をキーワードに下請け作業主体から自主製品作業を軸にして、仕事(作業)の中身を築くことから、利用者を含む地域の人々が安心して暮らせる地域社会の発展に貢献し、地域福祉の発信地となる施設(事業所)を目指していくことが大切だと考えました。

法人の全ての作業所と手をつなぎ、その中で「なかまたちがこんな環境で、あんな作業をしてもらえたら楽しいだろうなあ」「もっと法人内のスケールメリットを生かし、工賃アップを目指したい」ということで以下の視点を大切にして考えてきました。

① 作業種目(パン・弁当)の方向性

高い工賃、食に関わるもの、安心・安全・もったいない、地産地消、環境

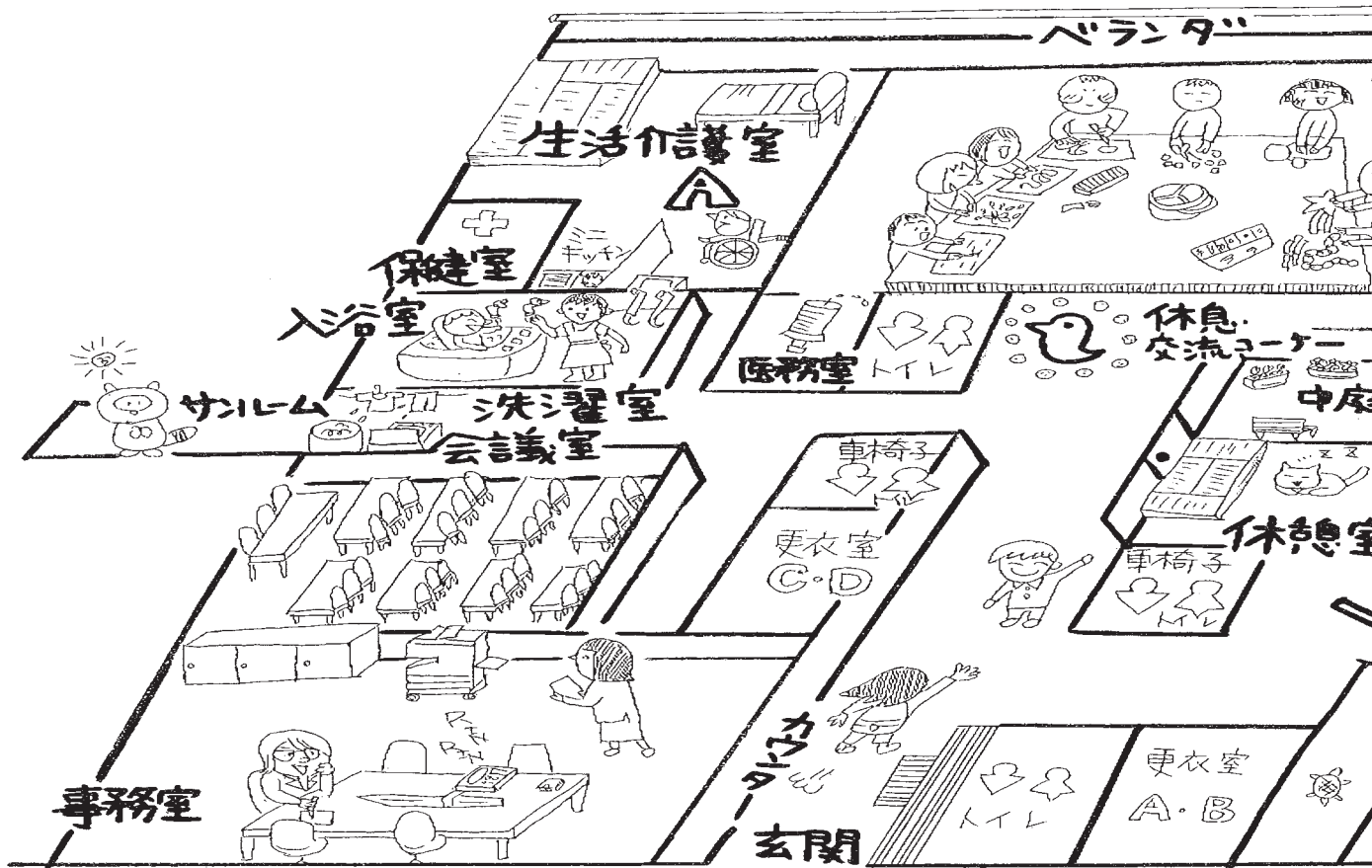
これらをキーワードに下請け作業主体から自主製品作業を軸にして、仕事(作業)の中身を築くことから、利用者が関われる工程(プログラム)を発想する。

② 自主製品(法人ブランドの打ち出し)

自主製品としては、「消費・消耗品で、よく(毎日)つかうもの、手間隙かけて丁寧に良質のものを生産する」という点で共通していました。

これらを作業種目の方向性「高い工賃、食に関わるもの、安心・安全・もったいない、地産地消、環境」に照らしていくと、安心・安全な農作物(加工品)の提供(販売・サービス業…喫茶部門など)を通して、地域で暮らす人たちとの交流をもちながら、利用者の労働性を高めしていくことなるのだと思います。

さて、以上のことを踏まえ、新しいごかし作業所では、所得保障



に結びつく生産性のあるブランドになりうる自主製品(パン・弁当)を考えています。

それだけではなく、利用者みなさんが積極的に関わられる工程(プログラム)を発想するとともに、具体的な流通の戦略をもたなければなりません。何よりも所得を保障できる自主製品として、作業(仕事)の自身を築くための準備をすすめていきたいと考えています。

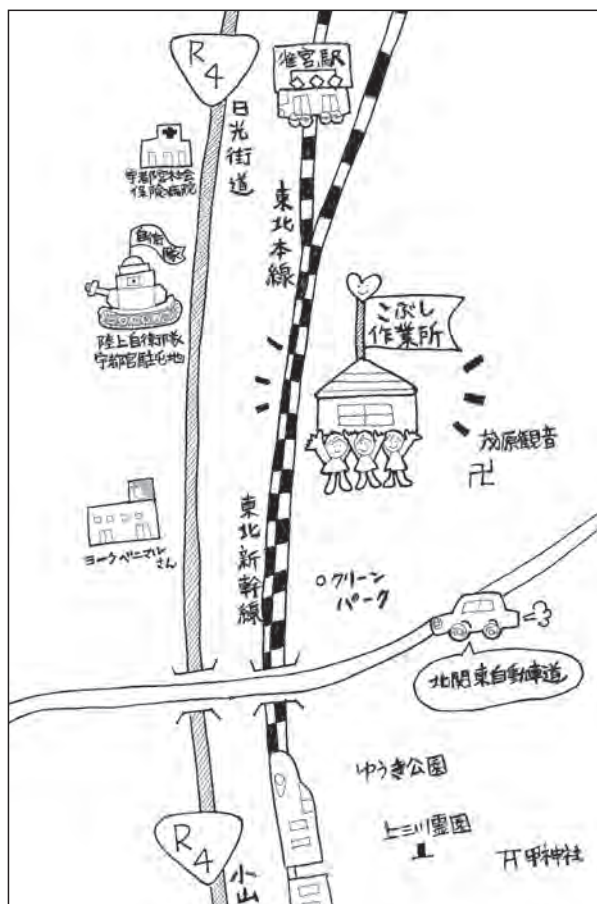
こぶし作業所に通うなかまは、一人ひとりが、成人期にふさわしい、生活を支えていく大きな柱が働くことで、まだ障がいが増えても、まさに「働くなかで、たくましく」なっていける場がこぶし作業所です。新しいこぶし作業所は、この可能性をさらに開花させ、その機会を増やしていく場になりたいと考えています。ご期待ください。

全ての障がい者の生きがいづくりの拠点に

改築移転が決定したことで、現在の利用者はもちろんのこと、新たに重症心身障がい者・高齢期障がい者のニーズに対応できる事業と定員増を視野に入れて、将来的な仕事活動や、生活の多角的支援の拠点としていくために、建設委員会などで、自立支援法への事業移行を前提に、次の七点について検討されてきました。

- ①生活介護 ②就労移行支援 ③就労継続支援
- ④日中一時 ⑤相談支援事業 ⑥地域活動支援センター
- ⑦重症心身障がい児(者)通園事業

計画段階では①③の移行事業と⑥相談支援事業を第一期事業と位置づけ検討をすすめていくことにしました。ただし、⑤相談支援事業は、宇都宮市の相談支援事業(包括化など)の推移を見守りながら、継続した取り組みができるようにしていきます。



私たちの考えの基本は、制度がどうであれ、利用者の願いを実現するために有効な事業づくりをすすめていくつもりです。

施設規模として七十名を予定していますが、作業室のほかに療法室や入浴施設を備えていきます。また、法人職員・外部団体・地域の方々も利用できる会議室や交流スペースも配置し、地域に開放された施設としての位置づけを強化していきます。(イラスト参照) いずれにしても、宇都宮市南部域を中心とした、社会資源の掘り起しと地域住民や最重度の方たちを含めた当事者の受け皿・たまり場の機能をもつ施設を目指します。同時にケア・ホームやグループホーム等多様なニーズに対応していくための役割を担える拠点施設と位置づけています。

一人ひとりが、生活の手ごたえを感じながら暮らしていけるように、私たちの夢をのせて、ただいま建設中です。

特集②「仕事に、燃える」〈後編〉



主役に踊り出た 重い障害のある仲間たち

■隠れたパワーを教えてくれたYさん

Yさんは、現在の弁当班に入るまでは、生活介護・下請け班で、創作活動や運動などを行いながら日々を過していました。私とは、生活介護の前身であるデイサービス事業の時期に係る機会がありました。事業移行時には、私は授産施設の職員に異動となり、係る機会が減ってしまいました。授産の仕事にも慣れたころ、作業中の生活介護の下請け班で、手持ち無沙汰そうにしているYさんと目が合う



と、彼が自分のほうへやってきたのです。(自分に関心をもってしてくれた事が、とてもうれしく感じました。)その時、一緒に作業をやってもらえるように促してみると、荷物を運び、洗い物を一生懸命やってくれました。作業が終わった時には、とてもうれしそうに笑いながら、もっとやりたい様子で顔を近づけてくれました。その様子を早速、生活介護・下請け班の職員に伝え、弁当班での作業班変更を、本人が関心のあるところから始めてみて、よりレベルの高い作業を楽しむ取り組みができないかと考えました。

最初のころは、担当した作業を全部職員にやってもらおうとするような仕草(洗い物ならスポンジをもっているだけで、待っていてやらないなど)をとりながら作業をしていましたが、毎日決まった作業を同じように一緒に作業する中で、こういう風にやればいいのかということわかってきた感じがしました。この間、支援の中で注意していたことは、職員の方からは絶対に手を出さず、本人が作業に入るまでは声かけをするだけで待つ(本人のペースをつかんで、納得がいくまで待つ)ことをして、徐々に弁当班の作業の流れにYさんのペースを合わせるようになっていきました。

それからは、作業が始まる前に確認を求めてくるので、「やりましょう」と声かけをすれば、作業に移ることができるようになりました。そのうち、誰が声をかけても大丈夫になりました。また、Yさんのすばらしいところにも気づきました。やり方がわかった作業なら、今まで集中しづらいと思われてきたYさんが、最後まで作業をしっかりとや



りきることができるということにも、ある時、気がつきました。

また、作業の最後は確認してもらいたいという要求もするのです。そのことは、自分の仕事を評価して欲しいという表れかなとも感じました。そのやり方を、弁当班の仲間も見ている、同じように声かけをするようになったことや、作業に移るときには2~3人のグループで行動することで、作業と作業の展開にもなんとかついてこられるようになり、み



んなと一緒に活動に参加することが増えてきました。最初は洗い物だけだったものが、弁当の盛り付け、ふた閉め、運搬、清掃と、どんどんできる作業が広がっていきました。作業に対しては、どれをとっても楽しそうに取り組んでいる様子でした。これには、他の利用者がYさんをしっかりと見ていて、やさしく接していたことが大きな要因だったと思います。いまでは、弁当班の作業をすることが、自分の大切な日課となり、生きがいのある日々を過ごしているように思えてなりません。(作業写真参照) (報告/中村)

さて、全2回にわたり、障がいの重い利用者の仕事づくりをテーマに、けやき作業所から報告をしてもらいました。実は、前編に登場したKさんは、以前、下請けの仕事に従事していました。仕事に対する関心と力は、元々あったのだと思いますが、大切なことは、変化した環境(作業内容、職員の異動や新しく入所してきた利用者で3倍にも大きくなった利用者集団)の中で、こうした実践を新任ともいえる職員が作りだしてきたことです。障がいの重い人たちの支援での暗黙の常識(重い障がいがある人たちは、高度で複雑な仕事や大きな集団、人・仕事内容等環境の変化にはついていくことが困難である。また、仕事より趣味的活動や体力づくりを中心に据える日課が必要等々)を当事者ととも乗り越えてきたことです。

報告者は「Kさんの時にも感じていましたが、活動へ参加したいという意欲の伝達の表現がそれぞれ違うだけで、働く(活動へ参加する)という意欲は、誰にでもあると感じました。Kさんの時は、どうやって仕事に関ったらよいかかわからず、迷ってしまっていたのかなと思います。Yさんは、作業をすることを待っていて、誘ってくれる人を待っていたように思えます。このように、人それぞれですが、そのことを見抜いて、本人がやりたいことは何かを考えることが支援員に必要なことではないかと思いました。」と報告を結んでいます。とても教訓的なことだと思います。

さらに編集部が感じたことを2・3点記して特集を終わりたいと思います。一つは、報告者の言う、意欲の中身を一つ一つ検証することが求められているのではないかと考えます。意欲を喚起するもの、職員の利用者との信頼関係、仕事の中身(高度な設備、魅力ある商品、顧客の評価等、仕事自体のおもしろさ)、作業班の雰囲気(生き生き従事している等)、利用者集団の人的連帯等々です。また、毎日、職員と一緒に、本人のペースに合わせてということも重要なのではないかと考えられます。意欲の前提である「(行動の)見通しがつく仕事づくり」という観点です。本人がやることがわかり意欲もわいてくるのではないかと考えるからです。工程の細分化から仕事に関する情報提供など、一人ひとりの状況にあった仕事の見通しを考えていくことも重要なのだと思いました。最後に、自立支援という、支援の本質に関することです。職員対利用者という一対一の関係から当事者と利用者集団という、人間関係の拡がりにつないでいる取り組みの中で本物の社会参加をすすめているということが教訓的です。全ての人にとってのテーマである自立という課題に切り込んでいることは活動の重要な視点ではないかと考えます。ぜひ、職員会議や家族会の話し合いでも働きがい、やりがいの中身を深め合い、活動や暮らしの中で拡げていきたい経験だと思います。

こぶしSupporters

サポーターズ

後援会 保護者会・ボランティアのページ

～こぶしの会を地域の大切な社会資源に育てるため、私たちは強力にバックアップします～

～この町に暮らして～

グループホーム大家さん第2弾の今回は、けやきハイツの大家さん関口さん御夫婦にインタビューして来ました。

— まず、関口さん、けやきとの出会いはどんなものでしたか？

ご主人：どんなもこんなも。まずけやきの所長の高橋さんが『けやきの仲間が住むとこなくて困ってる』つつうから『じゃあうちの貸してやるよ』ってはじめたんだ。だってよ。自分の身内が障がい者だったらと考えたんだ。いくとこなかったらどうしようもないし、そう考えたら黙ってらんねえよ。俺、稲毛田のシルバーにちょくちょく顔出してたからそこでもけやきの話聞いたしよ。

— けやきの利用者の印象はどうでしたか？

ご主人：前から知ってたしな。今まで何人も入れ替わった。けどみんな結構面白い。特にいつも沢山ポリ袋下げて歩いてる人いるべ？ あの人なんか路の真ん中で車にクラクション鳴らされて「ばかやろー」って大声で叫んだり、傘振りながら大声で巨人の応援しながら歩いたりしてる。見ていて面白い。

— わあ、けやきに居る時と同じことやっているんですね。Eさん。ところで現在建て替えられているのが新しいハイツだと聞いたのですが…。

ご主人：そうだよ。新しいハイツは8人住めるようになるぞ。トイレなんか5箇所あるし、廊下は6尺幅だし。

— すみません6尺って何センチですか？

ご主人：180センチだよ。そうか今の人は尺って言われてもわかんねえな。普通の家の廊下の倍の幅だ。車椅子の人とか入ってきてもいいよにな。車の出入り口も広くした。バスでも入れるように。それから今までのハイツじゃ洗濯物が雨で濡れちゃうから屋根付きの物干し場も用意した。なんせ以前こっちで取り込んでやったら伝えるの忘れてしまって「洗濯物がなくなっちゃった」って言われたこともあったから。

— でもすごいですね。トイレが5箇所ですか。現入居者数より多いじゃないですか。

ご主人：バリアフリーケアホームとかいったっけ？ それもうちで何とかしてやろうと思って申し出たこともあった。結局ほかに場所が見つかったって聞いて必要なくなったけどな。それからよ、若い連中におれから言いたいことがある。

— はっ、はい(恐縮) どんなことでしょうか？

ご主人：今の人はよ。俺らの頃と比べて社会に関心ねえべ。だから政策が間違ってもデモもしねえし、なにも文句も言わねえ。だから今度の自立支援法なんてバカな法律が通っちゃうんだ。今度選挙あつけど、ちゃんと障がい者のこと考えてくれる候補者に入れなきゃだめだよ。(このあと政党の話がしばらく続く)

— たしかに。新聞さえ読まない人も多いですものね。私も人のこと言えないけど。

ご主人：それから若い人は無駄遣いも多いね。若いうちは節約すること。そうすれば年取ってから苦労しなくてすむんだ。おれの経験だよ。

— わー耳が痛い。肝に銘じます。

ここまでけやきハイツの未来構想や関口さんの思想を話していただいたわけですが、ここでお写真を1枚撮らせていただきたいのですが、あれ？ご主人どこへ？

(恥ずかしがって隠れてしまったご主人)



追悼・関本正子さん



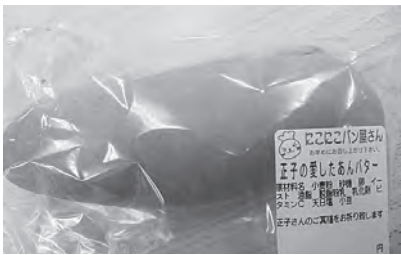
八月十九日早朝に、正子さんのお母さんから正子さんの危篤の連絡を受け、信じられない思いで病院にかけつけました。「まこちゃん、来てくれたよ」のお母さんの声にも、答えることなく、十時十九分に天国に旅立たれました。

けやき作業所の玄関にいらっしやるお客様、どなたがみえても、大きな声で「いらっしやい」、職員が外出から帰ると、「おかえりなさい」と大きな声で迎えてくれた正子さん。ご近所に散歩に出かけると、近所の方から、「お茶飲んでいきな」と声をかけていた

た手で、休憩時間も忘れてしまうほど集中していたホッチキス止めの仕事。作業所の仲間がつけられて仕事をしなうほどでした。

そんな正子さんが二年前に体調を崩された後は、元気な声を聞くことはできませんでしたが、黙って笑いかけてくれる正子さんの笑顔に、作業所の皆がほっと安心していた気がします。

そして、今年度に入り作業所では正子さんが入れるようなケアホームも準備中でしたが、間に合いませんでした。「一日でもいいから、入れてやりたかったな」と言われたお母さんのお言葉に、胸の詰まる思いとともに、ほんとうに悔やまれます。正子さん、けやき



作業所がこれからも芳賀の地域に根ざしていけるように見守っていてください。
(白井郁子)

「これまで娘を見守っていて下さった皆様へ深く感謝申し上げます」

親である私が言うのもおこがましいのですがうちの娘は、本当にいい娘でした。

抱えた障害にもくじけず我慢強い頑張り屋で大輪のひまわりのような、明るい笑顔で私達に笑いかけてくれたものです。

子を授かり、初めて知った親の有りがたさ。娘は私達に沢山のことを教えてくれました。私達の子として生まれてきてくれたことを心の底から感謝しています。

次女関本正子は、授かった命を大切に生き平成二十一年八月十九日、四十五歳にて尊い生涯を閉じました。

我が子を見送る悲しみは、言葉に尽くせぬものがありますが、旅立つ娘に願うことは、ただつだけ『これからもあの笑顔で笑っていてほしい』と…。

これまで多くの皆様のお力添えを賜り、娘は歩んでまいりましたが、中でも作業所のお仲間の皆さんには、本当によくしていただきました。作業所が毎日開いているなら、毎日通うほどに好きで、そして皆さんのことが大好きでした。

入院中も沢山のお見舞いや励ましのお言葉をいただきました。またこのたびも最後のお別れの場に駆けつけてくださり、ご厚情に深く感謝を申し上げます。娘と過ごした楽しい記憶を心の片隅に留めていただき、忘れないでやっていただけましたら、この上ない幸いです。

本日のご会葬誠に有難うございました。略儀ながら書状をもちてお礼申し上げます。

平成二十一年八月二十二日

喪主 関本啓一
外 親族一同

バンドメンバー大募集!!

暑い日が続いておりますが、いかがお過ごしでしょうか。
さて、このたび宇都宮オリオン通り内、オリオンスクエアにおきまして、こぶし作業所建設資金作りを兼ねたイベントを実施することとなりました。

その中で、社会福祉法人こぶしの会の中からも、バンドを結成し市民へアピールをしたいと考えています。つきましてはメンバーを募集しているので、どんどん申し込んでください。

利用者・職員・後援会等、楽器の演奏、歌などに興味のある方がいらっしゃいましたら、ぜひともご応募くださるようお願いいたします。

なお、一人での参加が難しい利用者については、介助者を同行するようお願いいたします。

【問い合わせ先】

社会福祉法人こぶしの会 県東ライフサポートセンター真岡 松本まで

TEL 0285-83-2567 FAX 0285-83-2567

*イベントは毎月第4日曜日

練習は基本的に土日の午後1:00~3:00頃です。

■こぶし作業所建設募金 ありがとうございました。

(2008年12月~2009年9月、敬称略)

藤岡浩美 佐々木優子 葭田美知子 篠原加代子 佐護操 山形充 楽摩八重子 北村安枝 横塚暁子
谷博之 田中一紀 河内小弓 小靖定一 木村謙 小林文子 松本辰美 平山芳子 藤田勝春 大塚隆
一 豊田亘 町田かつの 高田緑 石川真知子 伊澤啓子 加藤百江 阿久津みち子 平野初子 (株)あ
おい総研 高橋フミ 井澤亨夫 鬼頭行尚 星野久 東岡和 セルフみらい保護者会 阿部清 柳孝市
岸銀悦 箕輪義雄 高根沢昭 篠田洋行 土居一文 鈴木勇二 関口米穀店 坂寄文 (株)菊地組 小池
幸子 鈴木健夫 稲川昇司 酒井はるみ (有)橋本冷熱工業 こぶし作業所家族会 小池孝一 天谷章
松永桂子 吉永久美子 亀田孝子 牛丸テル子 田沢フサ 塩田孝 新田忠 古館淳子 けやき作業所
保護者会事業部 (株)エー・アイ保険事務所 左近士文雄 左近士妙貞 小滝一則 岡室淳子 床井蹠蹠
武田房雄 合原純子 渡辺祐子 増田忠三 崎谷登志子 (有)ヤオコー (株)ミツウロコ栃木支店 塩谷龍
二三 細山信行 滝口正行 池本喜代正 山崎勇 鈴木章史 佐藤順一 鈴木順子 藤崎印刷(株) 野中
ミヨ 大木文典 鈴紙商会 市田トモ子 神戸真弓 大坪和昭 常盤公枝 舟山節子 (株)フジマック
高橋温美 狐塚良子 渡邊英子 大橋洋子 (株)ヤマグチ 丸山工業(株) 山口正篤 (株)宇都宮ウチダ (株)
上岡総合保険事務所 荒井輝昭 石川栄一郎 沙羅沙 協同組合栃木県消防設備保守協会 比企達男
タニグチ(株) 矢崎和子 寺内静江 橋本洋子 今井房子 大澤明 坂本光子 (株)日本リサイクルアドバ
イザー 畠中栄子 浅川秀明 小林秀明 高橋久仁四 (有)雀宮不動産 古橋文男

こぶし作業所チャリティーバザー開催!!

■日 時 11月14日(土) 9:30~15:00

■場 所 オリオンスクエア(宇都宮市オリオン通り)

※ボランティア募集中。興味のある方はこぶし作業所までご連絡を
お願いいたします。

社会福祉法人
こぶしの会

- こぶし作業所
 ・知的障害者通所授産施設
 ・日中一時支援事業 ㊟ 321-0902 栃木県宇都宮市柳田町 1401
 TEL 028 (662) 1911 FAX 028 (662) 1912
 E-mail kobushi@chive.ocn.ne.jp
- こぶし作業所生活支援センター
 ・在宅障害(児)者の相談・支援 ㊟ 321-3235 栃木県宇都宮市鑑山町字東原 146 - 7
 TEL 028 (667) 5531
 E-mail kobushi-sw@tenor.ocn.ne.jp
- こぶしのときわ荘
 ・知的障害者ケアホーム ㊟ 321-0912 栃木県宇都宮市石井町字内野 2867 - 3
 TEL 028 (664) 0414
- く る み
 ・知的障害者ケアホーム ㊟ 321-3304 栃木県芳賀郡芳賀町祖母井 2244
 TEL 028 (687) 1040 FAX 028 (677) 5789
 E-mail keyaki@carrot.ocn.ne.jp
- けやき作業所
 ・知的障害者通所授産施設
 ・日中一時支援事業 ㊟ 321-3303 栃木県芳賀郡芳賀町稲毛田 1532
 TEL 028 (677) 0495 FAX 028 (687) 4818
 E-mail inageda@fancy.ocn.ne.jp
- 生活介護事業けやき作業所
 ・生活介護事業 ㊟ 321-3303 栃木県芳賀郡芳賀町稲毛田 1532
 TEL 028 (687) 0311
- 第2けやき作業所
 ・就労移行支援事業
 ・就労継続支援B型事業 ㊟ 321-4305 栃木県真岡市荒町 3 - 9 - 5
 TEL 0285 (83) 2567 FAX 0285 (83) 2567
 E-mail inageda@fancy.ocn.ne.jp
- 県東ライフサポートセンター
 「ほっとCHA」
 ・地域活動支援センター ㊟ 321-3304 栃木県芳賀郡芳賀町稲毛田 1532
 TEL 028 (687) 0311
- 県東ライフサポートセンター「真岡」
 ・地域活動支援センター ㊟ 321-3304 栃木県芳賀郡芳賀町祖母井 2305 - 2
 TEL 028 (677) 4430
- すずらんの家
 ・知的障害者グループホーム ㊟ 321-3304 栃木県芳賀郡芳賀町祖母井 178
 TEL 028 (677) 2876
- けやきハイッ
 ・知的障害者ケアホーム ㊟ 321-3304 栃木県芳賀郡芳賀町祖母井 1204 - 4
 TEL 028 (677) 0776
- 第2けやきホーム
 ・精神障害者グループホーム ㊟ 321-3304 栃木県芳賀郡芳賀町祖母井 775 - 2
- コーポ峰
 ・知的障害者ケアホーム ㊟ 321-4363 栃木県真岡市亀山 1043 - 23
 TEL 0285 (81) 1155 FAX 0285 (81) 1177
 E-mail selp-mirai@carrot.ocn.ne.jp
- セルプ・みらい
 ・知的障害者通所授産施設 ㊟ 321-4364 栃木県真岡市長田 1 - 12 - 5
- ぼてっど
 ・知的障害者グループホーム ㊟ 321-4305 栃木県真岡市荒町 110 - 1 市総合福祉保健センター内
 TEL 0285 (80) 7765 FAX 0285 (80) 7765
- 芳賀地区障害児者相談支援センター
 ・在宅障害(児)者の相談・支援 ㊟ 321-4305 栃木県真岡市荒町 111 - 1
 TEL 0285 (85) 8451 FAX 0285 (85) 8452
- 県東圏域障害者就業・生活支援センター「チャレンジセンター」
 ・障害者の就業相談・支援 ㊟ 321-0902 栃木県宇都宮市柳田町 1401
 TEL 028 (613) 3707 FAX 028 (666) 6128
 E-mail sphb8h99@jewel.ocn.ne.jp

本会の定款、事業計画、財務諸表等を閲覧ご希望の方は、各事業所までお申し出ください (閲覧時間 8:30 ~ 17:00)

編集後記

夏休みも終わってしまいましたね。夏休みの宿題は早く終わらせる？ こつこつと毎日少しづつやる？ それとも、8月末に半分泣きべそをかきながらギリギリになって慌ててやる？ どのタイプでしたか？ 私はいつも最後ギリギリで、もう後がない時期に、家族に手伝ってもらい完了させるといふ、ダメダメなタイプでした。毎年、「来年こそは7月中に終わりにして遊ぶぞ〜」と思うのですが…、また同じことを繰返していたような気がします。

あれからウン十年…。今も提出書類は期限ギリギリな私です。そんな私が4月から「こぶしだより」の編集委員に…。定期発行物なので期限は厳守！ 大きなプレッシャーはあります。ギリギリでも皆さんに手にとって読んでいただけるような記事が書けるよう、先輩編集委員の方々から指導いただき頑張っていきたいと思えます。夏の終わりの小さな決意でした。(河原)

編集委員

矢板 勉 松本 裕生 河原 とき子 菊地 豊 星野 早苗 稲村 淳彦

発行所 郵便番号二五〇〇三

東京都世田谷区砧六―二六―二一
 特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会

定価五〇円